

東京 IPO 特別コラム

2016年10月21日 Vol.53

JR九州の上場を側面支援する相場展開

街中はカボチャ色のハロウィンの飾りつけで賑やかですが、日経平均17000円を前に膠着状態だった株式相場もようやく9月5日の高値1万7156円を抜き上値を追い始め、賑やかさを取り戻してきたようです。しかも為替が1ドル=104円前後で推移し、極端な円安にはならず株高に至っているため、ドルベースの日経平均は165ドル台と昨年6月の日経平均の高値20952円（ドル換算で約166ドル）に並ぶ水準となってきました。また、個別株も中小型材料株、低位株などを中心に堅調な値動きを見せる銘柄が増えており、秋相場を多くの投資家が楽しんでおられるものと感じられます。

さて、いよいよ来週25日はJR九州（9142）が東証1部市場に上場します。同社の公開価格は既に2600円（上限価格）で決定し、その時価総額は4160億円で今年最大規模となります。しかも国が保有する100%の株式が放出されますので、全体相場が低迷した場合は需給面が心配でしたが、ここに来ての全体相場の上昇は同社のIPOをスムーズに実現させる側面支援となると見られます。とは言え、同社株がマザーズ上場の中小型株のような値動きをすることはあり得ませんので、過度な期待はできませんが、既に個人投資家の皆さんは合計1億6000万株の株式を購入されて上場の日を待っておられるものと推察されます。JR九州の上場はJR3社（東日本、西日本、東海）に続く4社目となり、国の財政改善に多少でも貢献する一方で、九州エリアの社会インフラの一翼を担う九州電力などと並ぶ最大規模の民間企業として投資家の資産形成を担うこととなります。既に様々な格好でメディアで紹介され、多くの投資家の皆さんは同社のことを知っておられるものと思います。筆者のところにも有名な株式雑誌から計2回の取材があり、同社株への評価の考え方などをお話させて頂き、ご覧になったかも知れませんが、上場時の初値は比較対象となるJR3社の株価によって違ってきます。3社の平均PERは10月20日現在で11.5倍。同社の公開価格はPER10.9倍ですので若干低い水準で決まっています。運輸サービスを主体とした公共インフラ株としての評価に加え、九州地区での不動産開発、観光・レジャー、ホテル、飲食などの事業を展開する民間企業としてどのような事業展開が見込めるのか投資家の関心が上場後も高まるものと期待されます。個人投資家の皆様からの評価は配当金に加え株主優待制度の充実度によっても違ってきます。既に公表されている株主優待制度の中身は割引率の大きさを見てもJR3社以上に内容が濃いので、旅行好きの投資家には魅力となるのかも知れません。

JR九州は認知度が高く上場初値もJR3社並みの平均PER（11.5倍）を加味した水準が予想されます。公開価格をどの程度上回って初値がつくか、また初値後の高値や安値はどうなるのか関心が高まりますが、実際には短期よりは長期スタンスでじっくりと保有する銘柄なのかと思われれます。JR3社や全体相場に連動する形とはなりませんが、

東京 IPO 特別コラム

秋の観光シーズン到来で登場してくるJR九州株が全体相場の上昇基調の中でどのように評価されるのか本コラムでも関心をもって見守りたいと思います。

*11月1日(火)に開催されるイブニングセミナーでは私がお話させて頂くことになりました。本コラムも回を重ねること50回を超え、100回、200回に向け発行を重ねて参る所存です。コラムから得られる投資アイデアなどを限られた時間ではありますが、お話させて頂きたいと思います。お時間がおありの皆様にはぜひ足をお運び頂ければ幸いです。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)